



# 上田八木マーケットレポート(2018年2月)

## ～短期金利は波乱なくレンジ内の動きを予想

2018年2月1日(木)  
上田八木短資株式会社

### 1. 国内経済情勢

(経済・景況判断)

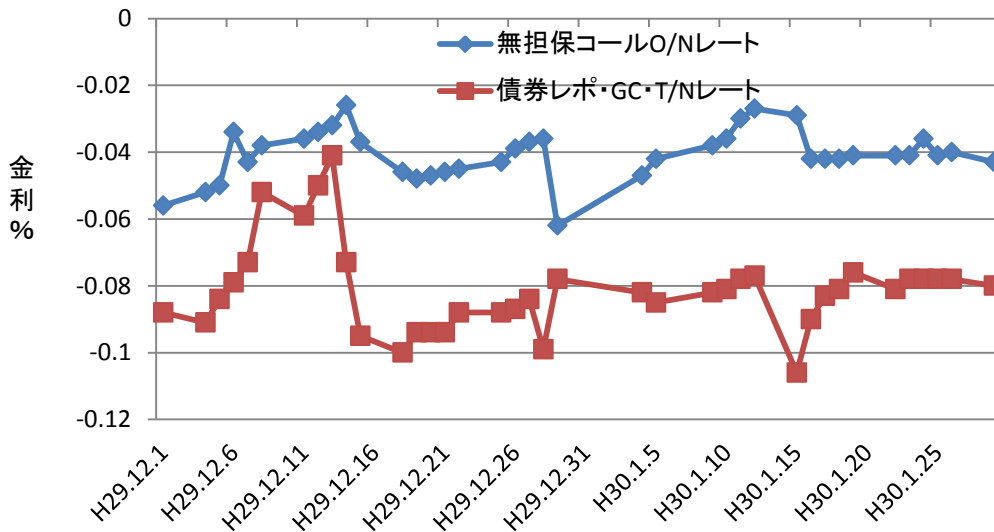
11月の景気動向指数(CI)一致指数(改定値)は、前月から1.5ポイント上昇し117.9となった。政府は1月の月例経済報告で、国内景気の基調判断を「景気は緩やかに回復している」とし、7カ月ぶりに上方修正した。個人消費の持ち直しや雇用情勢の改善が寄与した。

### 2. 短期金融市場の動向

(1月の短期金融市場動向等)

1月の日銀当座預金残高は370兆円台でスタート、12日に源泉税揚げ・国債の発行等により367兆円台に減少し、結局368兆円台で越月した。無担保コール・オーバーナイト・レートは、月初、加重平均レートで▲0.047%で始まったが、積みの最終日に向けて調達圧力が強まり、12日には▲0.027%、15日は▲0.029%となった。ターム物は1Wを中心とした出合い、レンジは▲0.04～▲0.02%程度だった。債券レポGCレートは、東京レポレートのT/Nが▲0.106%～▲0.076%のレンジ内での動きだった。TB3Mの業者間取引は▲0.15%～▲0.12%程度であった。CPの新規発行レートはあまり変化なく、a-1格の銘柄で0%近辺の狭い銘柄間金利差での発行が続いている。

無担保コールO/Nレートと債券レポGC・T/Nレート



(2月の短期金融市場見通し)

引き続き、無担保コールオーバーナイトレートや債券レポGCレートは、積みの進捗とマクロ加算残高の空きを睨みながらの金利横ばい圏での動きが予想される。CP発行レートは横這い圏のゼロ%近傍での発行が続くと予想される。

### 3. 海外経済情勢

#### (金融政策)

米連邦公開市場委員会(FOMC)は1月30日、31日両日の定例会合で、フェデラルファンド金利誘導目標レンジ(1.25-1.5%)の据え置きを決定した。インフレ率はこちら数カ月上昇したと指摘し、「今年更に上昇し、中期的には目標とする2%程度で安定する」との見方を示した。

#### (経済・景況判断)

米国では12月ISM製造業景況感指数が前月から1.5ポイント上昇し59.7となった。12月雇用統計は、(1)非農業部門雇用者数が前月比14.8万人増加、(2)失業率は4.1%で横ばい、(3)平均時給が前月比0.3%増加(前年同月比2.5%増)。

12月のユーロ圏製造業景気指数(PMI)改定値は60.6と、前月比0.5ポイント上昇。1997年6月統計開始以来の高水準となった。

### <主要経済指標カレンダー>

	日本		米国
		国債入札	
2月 1日		・国庫短期証券 (3ヶ月)	・ISM製造業指数
2日			・雇用統計
5日			
6日			・貿易収支
7日	・景気先行指数、景気一致指数(速)	・国庫短期証券 (6ヶ月)	
8日		・国庫短期証券 (3ヶ月)	
9日			
12日			
13日	・国内企業物価指数		・消費者物価指数、小売売上高
14日	・10-12月期GDP(速)		・卸売物価指数
15日	・機械受注、鋳工業生産(確)	・国庫短期証券 (3ヶ月)	・住宅着工件数
16日		・国庫短期証券 (1年)	
19日			
20日			
21日			・中古住宅販売件数
22日		・国庫短期証券 (3ヶ月)	
23日			
26日	・景気先行指数、景気一致指数(改)		・新築住宅販売件数
27日			・耐久財受注
28日	・鋳工業生産(速)		・10-12月期GDP(改)

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会